

2026年度 B 日程

国 語

(現代の国語、言語文化<近代以降の文章>)

(注 意)

1. 開始の指示があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. 机上には、受験票、黒鉛筆、消しゴム、時計以外のものを置かないでください。
3. 受験票と机の上に貼ってある受験番号が同じかどうか確認し、問題冊子と解答用紙のすべてに受験番号と氏名を記入してください。
4. 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
5. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
6. 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行動が見受けられた場合は、監督者が注意をします。
 - ③ 不正行為を行った場合は、直ちに受験を取りやめさせます。
7. 試験終了後、この問題冊子を持ち帰ってください。

受 験 番 号	氏 名

問題は **一** から **三** までで、3 ページから25 ページまであります。確かめてください。

解答は解答記入欄 **1** から **38** までにマークしてください。

一 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

刑務所のごはん。そう聞くとさぞや粗末でまずそうだなあ、とご想像になるに違いない。なにせ昔からくさいメシ、なんて言葉があるくらいだから。

しかし、これがそうまずくない。というか、いやなに結構イケる。くさくもないし。

食事になると炊場からはいいにおいの湯気が立ちのぼる。

では、そんな刑務所の食事情についてお話ししよう。

矯正医官の仕事のひとつに〈検食〉という業務がある。被収容者の食事と同じものを食べて中身をチェックすることだ。

ほら、よく時代劇などでお殿様が召し上がる御膳を家臣がお
A するシーンがあるでしょ？ 立場こそ違えど、あんな感じだと思ってもらえばいい。

「先生、検食お願いしまーす」

係の刑務官が出前かごのような入れ物で運んできてくれる食事を、手の空いている医官がワンスプーンずつ味見する。他の業務の合間にササ

ッと済ませるものなので、基本は立ったままでひと口食べるのみ。残念ながらゆつくり堪能している暇はない。

たいていは問題がないので、書類にOKの印を押す。

施設にもよるけれど、食事は学校給食にあるようなプレートに盛られている。主食と副食が2種類程度、それに汁椀がつくことも。ヨーグルトや缶詰のフルーツなどのデザートが添えられる日もある。量は充分に多い。

主食は基本的に麦飯、どこの刑務所も伝統的に麦と決まっている。

この麦のにおいが、かねてからくさいメシと称されてきた所以だけれど、麦独特の風味を指すだけであって本当にくさいわけじゃない。

白米よりも値段が安いのが一番のメリット、くわえて食物繊維が豊富で便秘予防になる。刑務所暮らしでは環境の変化から便通異常を訴える者が多いので、そういう面からも麦が適しているのだ。

おまけに白米よりも血糖値の上昇も抑えられるので、なかなかの優れた健康食材だ。

そのせいで最近ではナチュラル志向のカフェにも麦飯メニューをよく見かける。意識高い系女子が幸せそうに受刑者と同じものを頬ばっているのは、^①なんとなく不思議な光景という気もするが、まあよしとしよう。

主食のカロリーと副食のバランスは決められている。おかずの脂質量、たんぱく質量、そのうち動物性たんぱく質の占める割合から塩分量、ビタミンA、B、Cまで、しっかりと基準が設けられている。これに基づいて管理栄養士スタッフが献立を考える。

代表的な献立の例をあげてみよう。

〈朝食〉

麦飯

味噌汁（ほうれん草、しいたけ）

はりはり漬

サバの味噌煮

〈昼食〉

コッペパン

エビとブロッコリーの炒め物

大根サラダ

ぜんざい

〈夕食〉

麦飯

鶏肉の甘酢煮

卵の花

五目スープ

ざっとこんなラインナップ。どうだろうか？

んでいると思うのだけれど。

もちろんコッペパンにぜんざいとか、

結構

B

に富

「おいしい、ちょっと糖質が多すぎるんじゃないの？」

と突っ込みたくなる部分はあるし、生野菜が少ないから彩りが単調でいつも茶色っぽいなど、

C

気になる点はある。

でもそれも材料費との兼ね合いでしかたないことなのだ。なんと云ったって国民のみなさんの大切な税金でまかなわれているわけだから、贅沢をのたまっちゃいかん。

これらの献立を実際に作るのはなんと被収容者、当人たちである

（注：一部の施設では外部の配食会社へ委託しているところもある）。

刑務所が懲役刑を務める場所だということは先にお話ししたとおり。

（注：）

所内に木工、印刷、洋裁、金属などいくつかの工場があり、各自配属が決められている。このひとつに炊場があり、そこで働く者たちが日々の食事を料理するのだ。

炊場は朝早くからもうくと湯気があがる。調理服に帽子、長靴をはいた男たちが押すワゴンのガラガラいう音で賑やかだ。

かつて小学校時代、給食当番の日に押したワゴンと同じ、あれだ。

毎回異なるメニューを作るといふ作業のバリエーションがあるせいか、他の単調作業の工場と比べて少しばかり活気を感じる仕事場でもある。

コンロの火や刃物といった危険な道具を用いるため、日ごろの行いの良い受刑者が配置されることが多い。そういう面からもやりがいのある業務なのかもしれない。

しかし一度に千人からの調理をするので、とにかく鍋が大きい。人ひとりがすっぽり入れるくらいのサイズ感。

あまりの巨大さにカレーやシチューのルーなどはなかなかうまく溶かすのが難しいから味に偏りが出やすい。すると、

「おい、オレのシチューやけに薄味だぞ」

「こっちはルーが固まりで入ってて、どろどろじゃないか」

なんてことになる。被収容者にとっては食事が何よりの楽しみなので、こんなささいなことからもめ事が起きないとも限らない。

そんなトラブルを避けるべく、調理担当の受刑者はダメにならないように一生懸命にかき混ぜる。鍋に負けないくらいの大きなへらで混ぜる、混ぜる。立派な肉体労働だ。

だがこれがまた困りもの。かき回せばかき回すほど、野菜は崩れて形がなくなってしまうのだ。プロッコリーなどは原形を留めることとなく、ただのグリーンのシチューと化していることもままある。検査の際も、

「え、これいったいなに？」

聞かないと具がわからないことがある。

まあ、これもひとつの刑務所あるあるだ。

塩分量は一日6グラムが目安。外の世界よりもはるかに薄味だけれども、これくらいが健康的。^④ことに高血圧にはもってこいの分量。そもそも収容以前から血圧が高めの者が多いのだけれど、この食事のおかげでみんなメキメキと値が下がる。

「シャバでは3種類も降圧剤を飲んでいたのが、今じゃ薬ゼロですっかり正常血圧ですよ。ありがとうございます」

なんて喜ぶ者もいるほど。

高血圧の他には糖尿病の受刑者も多いのだが、これもまた刑期中にずいぶんよくなる。多くの施設では糖尿病患者用の特別なメニューを組むのは難しい。できることと言ったら、単純に主食を減らしたり甘いデザート砂糖不使用のものに差し替えたりするくらいのものだ。それでもみるみる数値が好転していく。

これは彼らが入所前にどれだけ D 摂生をしていたかという話だ。

それが塀の中に入った途端に生活は一変。

規則的な食事時間、とりわけ夕飯は早い。夜中に夜食は食べない。アルコールは飲めない。タバコは吸えないし、むしろ覚醒剤もやれない。体に悪いことは何ひとつできないのだから、それは人類のお手本のようなヘルシーライフだ。

これだけのことを守るだけで、人間はここまで健康になれるのかと目を見張るほどである。

血液データはぐんぐんと改善、血圧も良好となり顔色もすーっと美しく透き通る。くすみは消え、脂ぎった吹き出物も引っ込む。受刑者たちは案外と色白美肌だ。

そうそう、オヤジっぽいヘンな体臭もない。そもそも加齢臭やオヤジ臭は皮脂が酸化して発生するニオイだから、余分な脂肪がすっかり落ちた男からはしないのだ。

彼らは毎日入浴できるわけではない。夏は週3回、冬は週2回程度だけれど、不思議と悪いニオイはしない。

刑務官と冗談で、

「獄中美容ダイエットっていう刑務所のレシピ本を出したらすぐ売れるんじゃないですかね？」

と話しているくらいだ。

つまるところ、私は塀の中で患者を診たことで、

「なるほど、生活習慣病つてのは本当に生活習慣で変えられるものなんだな」

と改めていたく実感させられたわけである。

そう、塀の外の患者さんだってまったく同じだ。

E
なの

に単にやっていない、できていないだけなのである。

刑務所の食事はハラルその他の宗教食にも対応している。

今や犯罪もグローバル、外国人の被収容者も数多い。豚肉禁、牛肉禁の者には大豆ミートで代用される。ラマダン（断食月）にも秩序に問題のない範囲で配慮がなされる。

重度の食物アレルギーの場合は除去食も作ってもらえる。ただしたまたひとりのために特別なメニューを作るのはとても手間のかかる作業なので、それにはちゃんとした医学的証明が必要。つまり F
に適応される。

とくに私がよくやるのはプリックテストという検査。アレルギーと疑われる食品を生理食塩水に浸したエキスを作っておき、これを腕の皮膚にほんのちよっぴり注射針で刺す。ちよっと手筈が面倒なので一般のクリニックでやってくれるところは少ないと思うが、検査会社に外注する必要もなく、所内で30分で結果がわかる。おまけにほとんどお金がかか

らないので、塀の中ではやりやすい検査である。

これまでナス、ブドウ、モモなどいろいろ調べた。

「おおー、陽性に出たねー」

「そうっすねえ、すごいっすねえ」

なんて、患者としゃべりながら一緒になって赤く腫れた腕を確認していると、つい相手が重罪犯だということを忘れそうになる。

⑤

ハレの日にはお祝いメニューも出る。祝日にはお菓子が出たり、お正月にはおせち料理的なものやお餅も用意される。

食事くらいしか楽しみがないので、これはすごく彼らの気持ちを和ませる。

ただし糖尿病で治療中だと〈甘禁〉^{あまきん}と言ってせっかくのお菓子が禁止される。代替え品の砂糖ゼロゼリーみたいなものになってしまいうから、これがイヤで糖尿病を良くしようと頑張る患者もたくさんいる。

糖尿病や高血圧、脂肪肝といった生活習慣病が改善して胃腸の調子も整えば、おのずと精神面も良いほうに向かう。彼らの更生の一步は規則的な暮らしと食事から始まるのだ。

人間は食から変わる。

刑務所で暮らせば実体験を以てそれを自覚できるだろう。今後生きていくうえで、とても大事なことだ。

早寝早起き、運動、仕事、そして食。そんなあたりまえのことを毎日繰り返す意義を教えるのも矯正医療の役割だ。

残念ながら、多くの者が出所後にはすぐに忘れてしまいうだろうけれども……。

（おおたわ史絵『プリズン・ドクター』による）

(注二) 同様の内容が問題に引用しているより以前の部分に書かれている。

1 問1 空欄

A

に入る言葉として最も適切なものを次の

- ① 見得
② 見舞
③ 毒見
④ 内見
⑤ 味見

2 問2

傍線部①「なんとなく不思議な光景」の内容として本文中で示されているものは何か。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

① 受刑者が意識高い系女子のように血糖値を気にしていること。

② 刑務所の中にナチュラル志向のカフェが併設されていること。

③ 意識高い系女子が幸せそうに受刑者と一緒に食事をとっていること。

④ 受刑者向けの食事とナチュラル志向の食事と同じ主食が使われていること。

⑤ 受刑者と意識高い系女子が食事に関して似た好みを持っていること。

3 問3 空欄

B

に入る言葉として最も適切なものを次の

- ① ①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。
① サステナブル
② ガバナンス
③ パフォーマンス
④ バラエティ
⑤ ウィット

4 問4 空欄

C

に入る言葉として最も適切なものを次の

① ⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

① とりわけ

② すべからず

③ しばしば

④ おいおい

⑤ いささか

5 問5

傍線部②「のたまっちゃ」の「のたまう」の意味はどれか。

最も適切なものを次の① ⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

① 「言う」の尊敬語

② 「言う」の謙譲語

③ 「聞く」の尊敬語

④ 「聞く」の謙譲語

⑤ 「聞く」の丁寧語

6 問6

傍線部③「やりがいのある業務」である理由として本文中で

示されているものは何か。最も適切なものを次の① ⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

① 作業に多様性があるうえに、素行がよいと評価されていることがわかるため。

② 受刑者にとっては一番の楽しみである食事を扱える立場のため。

③ 危険な道具を使いこなせると、自分の持っている技術が評価されているため。

④ 小学生のころにやったことがある作業なので、過去の経験が生かせるため。

⑤ 立派な肉体労働であり、巨大な鍋をかき混ぜる達成感を味わえるため。

7 問7

傍線部④「ことに」と同じ意味の言葉はどれか。最も適切な

ものを次の① ⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

① 逆に

② そのうえ

③ とりわけ

④ そのため

⑤ ついでに

8 問 8

空欄

D

に入る漢字一文字として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① 不
- ② 否
- ③ 無
- ④ 非
- ⑤ 未

9 問 9

空欄

E

に入る文として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① アルコール、タバコ、覚醒剤はやつてはいけない。
- ② みんな食事療法を正しくやれば必ず効果がある。
- ③ 刑務所のレシピ本を今すぐ買うべきである。
- ④ 人間は生まれながらにして罪人なのだ。
- ⑤ お風呂は本来週に3回も入れれば十分なのだ。

10 問 10

空欄

F

に入る言葉として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① 受刑者の症状に合致した医学論文を、私たち医官が見つけた場合
- ② 私たち医官がアレルギーの検査を行って、陽性と判断された場合
- ③ 外部のクリニックを受刑者が受診して、アレルギーだと診断された場合
- ④ 実際にアレルギーの症状が出て、受刑者が苦しんでいる場合
- ⑤ 受刑者が嘘をついていないと、刑務官と私たち医官が合意した場合

11 問 11

傍線部⑤「ハレの日」の意味として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① 仕事が休みの日
- ② 日常の中にある喜びを示す日
- ③ 特にめでたいことがある日
- ④ 国家が定めた国民の祝日
- ⑤ 普段と異なる非日常的な特別な日

12
問12

生活習慣病について本文中で示されているものは何か。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

① 規則的で適切な食事をとって体に悪い習慣をやめれば生活習慣病は改善する。

② 生活習慣病は精神に悪影響を及ぼしており、犯罪の温床となっている。

③ 生活習慣病を治すにはお風呂は週に2～3回も入れば十分である。

④ アルコールやタバコや覚醒剤が手に入る刑務所の外では生活習慣病は治らない。

⑤ 極論すれば矯正医療とは生活習慣病を治すことである。

13
問13

本文中では刑務所内の様子が描かれている。刑務所に収監された経験がある作家を次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

① 澁澤龍彦

② 小林多喜二

③ 野坂昭如

④ 伊藤整

⑤ 三島由紀夫

二

次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

人にそれぞれの履歴書があるように、木にもそれがある。木はめいめい、そのからだにしろして、履歴をみせている。年齢はいくつか。順調に、うれしいなく今日までできたのか。それとも苦勞をしのいでできたのか。幸福なら、幸福であり得たわけがあるはずだし、苦勞があつたのなら、何歳のとき、何度の、どんな種類の障害に逢つたのか、そういうことはみな木自身のからだに書かれているし、また、その木の周辺の事物が裏書きをしている——と同行の森林の人は教えてくれた。

間近にくっついて並びたつ二本の木の、一方はまっすぐに立ち、一方はかしいでいるのを、これら二本がある時は助けあう間柄であり、ある時はライバルであつたと推定するのも、木のからだに書いてある履歴書から、そう読めるのだ、という。まずこの木が子供で弱々しかった頃、二本であるが故にたぶん、風にも雪にも耐え易かつたろう。もし一本なら折れてしまう場合も、二本ならばこそ堪えるだけの力になったかと思われる。一本より二本は強いのである。が、その後育つうちに、各自に力がついてきた時、競わずにはいられなかつたろう。どの世界でも、力の等しいものが並べば、競いがはじまるのは自然である。力の充実した若い二本は、幼い時の互助の状態などにはかわりなく、ライバルとしてはげしい成長争いがあつたと思われる。だが、この時点では、二本はまだともにまっすぐに立っていただろう。やがて一方に差がつく。わずかの差でも、先に伸びたものの勝である。太陽と空間を気ままにするこ

つたものには圧迫となる。負けたものは日照は不足するし、伸びようとする頭はおさえられるし、萎縮してしまう。それでも、もし周囲に、同じ年齢、あるいはそれよりもっと大きい木々が、すくすくと生えていたとすれば、先を越され頭を塞がれたこの木も、不服ながら二番手に甘んじて、しかしまっすぐ素直な姿のまま、生きていったかもしれない。横にかしぐだけの、余地の空間がないから、うもすもなく、止むを得ず真っすぐに生きるしかないだろう。

だが、ここでもまわりの状態に変化があつた。どういう変化だったかはわからない。すぐそばにあつた老木が、寿命で倒れたのもあろうか。または人による伐採が行われたのだろうか。それともまた大雨か、雪解け水かで、土が動いたか。とにかく何かの理由で、このすぐそばの何本かが、生命を失い、そこにぽっかりと思わぬ空間ができた、と見るのである。

「その証拠にはごらんなさい。まわりの状態に比べて、この木のところだけ、なんだかヘンな隙間になっていると思いませんか。木の履歴書と周囲の情況を読み合わせると、そんなことになります。」

日照を阻害されている木が、このチャンスを逃すわけではない。二番手でまっすぐにいくより、太陽と空間を得ようとして傾くのは当然である。従つて、ここで軀幹は永久の癖を背負ったことになる。木の履歴書のそうした読み方をきくと、木の生きていく苦しみと、人の生きていく苦しみとが、あまりにもよく似ているので、しきりに親身な感情がうごいて、気をつけて見れば、ここにもそこにも、苦患の記録をつけた木はたくさんあるのだつた。こぶを抱えたものの、ねじれのきたものの、曲つたもの、

本来の幹が折れたかして、途中からのわき枝が幹に代つて立ち上つたものの、根元は一つなのに三メートルほどのところから二又になったものの、密着して二本が一本のようになってゐるもの等々、変形の箇所をもつものは珍しくない。しかもその歪みや曲りのところは、外見の変形だけでなく、内側も木の組織がムラになつて、意固地に固く変質してゐて、材に挽こうとすれば抵抗がつよく、そのあげくは挽いてゐる最中からもうひどく反りかえつたり、または裂けてしまつたりする、という。それをアテと呼んで、使いものにならぬ役立たずの、厄介物なのだという。アテはよくないもの、悪いものとして、なにか最低の等級にも入れられない、それ以下のものとされているようにきこえた。

「なぜなんでしょう。だつてその曲りやゆがみは、いわば力ではないんですか。それあつたが故に、木は折れも倒れもせずに生きてきたんじゃないですか。」

「そうです、木が立木で生きていた時はね。しかし、木が立木ではなくなつて、材とするとき、アテはどう救いたくても救えない、最も悪い欠点です。」

「そんなにけなしつけるとは、あんまりひどい。さんざ辛い目を我慢して頑張つてきたというのに、厄介者だの役立たずだのと、なぜそんな冷淡なことをいうんでしょう。木の身になつてごらんなさい、恨めしくて、くやし涙がこぼれます。」

「こりや珍しいことをさくものだ。この土地は林業、製材業が多くて、木のことにかけてはみな相当に関心をよせていますが、アテを劣等といつて、オコラレたという話はきいたことない。アテはそりやもう、鼻つ

まみですからね。かわいそうなんていう者はない。」

どうやら私の感傷は、受付けられないらしくて、言えбайうほど相手はきよとんとした表情になる。要するにアテは、それほどよくないものなのだろう。だとすれば私は、それがどう悪いのか、どうよくないのか、自分の目で見て確かめなくては、このままではすまされなかつた。アテがどんなふうに関立たずの厄介ものか、見せてもらえまいか、と頼んだ。きよとんとした表情が、呆れた表情になり、困却になり、そして笑ひになつた。

「そりやまあ、して出来ないことでもありませんから、なんとか計らつてみていいけど、こんな註文はじめてだ。」

心の中がアテの悲しさでいっぱいになりながら、林の道を進んだ。アテの木ばかりが目につく。気楽にのんびりして見えるアテは、一本もなかつた。百年二百年の立木一本は、どんなに重いものだろう。薪一本の重さでも、バカにはできない。一把ともなれば、もうウンウンいわなければならぬ。まして立木の重さである。およその察しさえつきかねるが、哀れと思う下心があつて見れば、アテはどれも醜さをさらしたまま、苛酷な重量を堪えているかのようだった。見るほどに目が④つらくなつてきた時、この少し先に、大樹ときわめつきのある良い木があります、という。

大樹、というのとエリートの木というのと、同じなのか違うのか知らないが、それはまさにエリートというべきものか、と思つた。エリートというには、それ一本だけよいのではなくて、周囲に何本もの質のいい、いわばお供の木というものが揃つていなくてはいいけない、ときいた。エ

リートの条件は、樹齡樹勢その他いろいろな定めがあることもちろんだが、お供というか親衛隊というか、そういう引き従えるもののあることも、資格のうちというようである。その大樹はきわめつけだけあって、ひと際ぬきんでていたが、まわりの一族もすくすくと素直に、粒をそろえていい木が囲っていた。アテの変形をみて辛くなっていた目に、それはこの上なく心伸びやかになる情景として映った。思わず、素直なものはさすがにいいわね、といった。アテは氣持^{きもち}をしほするようにしてくるが、エリートは心をなごやかにひらかせた。

エリートよりもつといい氣分の林もあります、という。谷をはさんだ向う側の林だった。なんだか今見てきた大樹の残像があつて、その林がそれほどいいというのがわからず、ほんやりと見ていた。谷を距^{へだ}てているから遠くもあるし、ごく普通のような景色としか思えない。ただ、ここはそろって幹がまっすぐだった。斜^{ななめ}に傾^かいだ木がない。遠見はことに、垂直の中の斜めはよくわかるのだが、それがなかった。だから行儀がいいのだが、まさかそれが取柄というわけでもなからうに、と思ううち氣が付いた。行儀のいいものは上品だが、しばしば活氣に欠けることが多い。それをここは元氣に茂っている、といった感じがある。

「その通り、この林は元氣です。老樹と、中年壮年の木と、青年少年の木と、そして幼い木と、すべての階層がこの林では揃^{そろ}って元氣なのです。将来の希望を托^{たく}せる、こういう林が私^{わたし}たちには一番、いい氣持に眺められる林なんです。」

すべての年齢層がそろっていて、一斉に元氣であることが、すなわち将来性のある繁榮なのだ、というのである。なるほどとおもう。道はせ

ばまって、川へ突^つきあたり、棧橋がかかっている。皮つきのままの細丸太を、横に並べた棧橋である。並べた丸太と丸太の窪^{くぼ}みに、^⑥檜の実生^{ひのき}が、セ^⑤ンチにもならぬ何ミリの小さい芽を、だが、はつきりと青くもちあげていた。これが二百年生きる木の、振り出しの姿なのだが、信じた頼りなさである。とはいうが、いま見てきた繁榮の林のめでたさも、そもそもはこの可愛^{かわ}らしいひ弱さからの出発にまちがいない。ごみのように見える檜の子は、エリートにもアテにもない、いじらしさをもっていた。それは、伸びよと折らせる強いいじらしさだった。

ひた押しに押し頼み、達^たつて願^{ねが}って、とうとう特別に、アテを挽いてもらう承諾を得た。無理に承知させたのである。

この頃、とかく思うことを押し通そうとして、我を張ることが多くなつた。^⑦もう持時間^{もちじかん}は少ない、と思ひはじめているものだから、今日の機会をせっかちに追う。またの折に、といっていたこれまでのゆとりはなくなつてしまった。多少の強情はまっぴらご免、といった氣が起きることに、実にしばしばである。このたびはだいま見しておかなければ、二度とアテがどう悪い木なのか、どう厄介者なのか、見せてもらおう折はない、と思われた。それなりに、またもし来年、もう一度機会があつたとしても、その一年の間に自分はさらに老いてしまつて、アテの背負^おわされた業^{ごう}を切り開いて確かめようとする、そんな氣力はもう失っているかもしれないのである。強引に承知させなければならなかったのだ。

しかし、アテが都合よく、すぐその場にころがっているわけではなかった。適当な材をさがすあいだ、一旦^{いったん}帰京して通知を待ってくれ、という。同じことなら、癖の強いのを挽いて、よく納得してもらわなくては、

こんな特別注文に應じる甲斐はない、という。無理に押しつけにされて、迷惑のあまり、腹をたててそういつているのではない。私がアテをかわいそうがる故に、こんなにしてアテの業をつきとめようとしているのだ、ということをも山の人はよくわかつてくれたのだった。

「材木だとは思わないから、アテなんて、これまで心にかけてことはなかったが、いわれてみれば木も人間も、生きるにちがうところはないかもしれない。アテを哀れといわれれば、身につまされるおぼえもあるよねえ。すんなり暮しちやこなかったんだ。」

この一言をきいて、私は帰京して待つことに、疑いをもたなかった。この人はかならず、約束を反故にしない、と安心した。

その通り、待ちくたびれないうちに、通知がきた。行くと、製材所では作業場の構いの外にまで、製材所特有のキーンという鋭い騒音がはみだしていた。音階はかなり高く、音いろにきつい緊張がある。おびえを感じさせる断続音だった。思わずあたりを見まわすと、けいとうが濃く燃え、コスモスが淡くゆらぎ、桜もみじが散りかかり、その上は針葉樹の暗い林が、急傾斜でのぼっている。まっかな午後の陽がはなやかで、平穏な美しい秋景である。だが、その陽光には温度というものがなくて、まるで嘘のようにただ赤々としているばかり、しんしんと背筋から冷えてきて、鼻の先から無感覚にはなみずがたれ、麻のハンケチが痛い。製材の音響と、平和な風景と、強い冷込みとが、都会ものには印象ふかかった。

材はすでに樹皮を去り、屋内に運びこまれており、製材デッキに乘せ

るばかりに、段取だんどりされていた。二百年はたつぷり生きてきた木だから、年輪を数えてごらん、といわれたが眼鏡はくもるし、寒くてそんなじつとしたことなど、できるものではなかった。ただ、樹芯が、思いのほかの片寄ったところにあるのを見た。アテであるしるしである。この木、根元近いところで、最初の困苦をふみこたえた、と察した。しかし見たところ、^⑧これという節やうろはなし、芯の片寄りがどれだけ幹をアテにしているのか、表面からは皆目わからない。ゆがみやねじれとわかるような難点はない。アテ材はなめらかな素肌をのべて、静かに横たわっていた。果してこの体の中に、人にいう「どうしようもないたちの悪さ」があるのか、とうたがう。

ということは、アテの木というのが、よそにはすぐに察しのつかないような、微妙にいり組んだ苦勞を重ねながら、生きてきたということなのだろうか。ということは、木というものが、外側をさりげなく繕っていくことのできるものだということであり、同時に、木は一度傷をうけると、終生その傷のいたみを、体内に抱えて暮すものだということになるだろうか。木は中心から肥え育つものでなく、つねに外へ外へと、新しく年輪をふやすことによつて育つ、と教えられたのはこのことと思う。外へ外へと新生するから、傷も、傷に連鎖して生じた狂いも、年月と共に内へ内へとくるものだろう。くるむ、とはやさしい情をふくむことである。中身をいたわり、庇おほい、外からの災いの防ぎ役もかねるのが、くるむということ。生きているものは人も鳥けものもみな、傷にはくるみを要する。木も当然そうする。くるんで、庇って、変形を補って、そしてなるべくは無傷の木と同じく、丸い幹に仕上げていこうとする。

アテ材が素人目には、一見なめらかな肌をのべて、良材とさして目立つ変りなくみえるのは、人を偽るのではなくて、それより他ない自然の理によるものなのだ、とおもう。

では挽きましよう、といわれた。いつか製材の音がびたりと止んでいた。工場の今日の予定を一時中断して、アテの製材をみせてくれるのである。簡単にいえば製材は、材を中にして、二つのデッキがあつて行われる。一つは固定したデッキで、ここに動力で回転するノコがついてゐる。もう一つのは進退両様に移動のできるデッキで、これには作業員が乗る。材はあらかじめ木取るべき寸法がきめられ、寸法に従つた位置におかれ、刃物の前へ、これも動力によつて押し進められ、所定の通りに切断され、切断されたものは待ちうけている作業員によつて、それぞれ片付けられるという仕組みである。

作業員が三人、移動デッキの位置についた。長い鳶口をもっている。いつも材を扱うのにはこれを使うのだそうだが、万一挽いてゐる材が、ひどく反り返ったりすればあぶない、その時素手ではどうにもならない、という。それにアテは、裂けることもあるし、裂けて飛ぶようなこともないとは限らず、そんな時の用心のためともいう。それほどまで、アテは猛々しいのかと、暗い気持になる。

やがてスイッチが入つて、材は前へと動き、材の丸さの七三のあたり、最初の刃がふれると同時に、キーンという甲高い音響が起きて、あつてなく易々と、第一回の切断が終つた。反りも歪みもしなかつた。予告されていたような、アテのあばれはなかつた。そういううちにも、材と移動デッキとは元の場所まで戻された。いま切つた断面を職長があら

ためる。木の目は前もつての見込み通りだつたようである。だからすぐはじめの予定をかねることなく、今度は厚板をとる。これもどうということなく済んだ。けれども、もうその面はそれが限度で、あとは取れない、いまの板も、長さをそのままでは売りものにならず、やがて反つてくるであろう悪い部分を切りすて、短尺にするしか通用しない、という。面をかえて、また板をとる。こんな太い材なのに、なぜ柱をとらないで板ばかりなのか、と問う。柱なんか思いもよらない、板をとるのは、ちつとでも役に立つようにしようと思うからこそだ、まあ、見ていてもらいたい、アテなんだから――ほら、もういけないやな、という。半分まで素直に裁たれてきた板が、そこからぐうつと身をねじつた。裁たれつつ、反りかえつた。耐えかねた、といったような、反りのうちかただった。途中から急に反つたのだから、当然板の頭のほうは振られて、コンベヤを一尺（約三〇センチ）も外へはみだした。すべて、はつと見てゐる間のことだった。

「な、わかつたろ。アテはこうなんだ。だからワルなんだ。」

なんとかできないのか、この板を。いま反つたばかりなのだから、矯められるのではなからうか、とあせるようなセカセカする気があつて、反つた所を掴んだ。固かつた。掌など、退けてしまうように、固かつた。手出しができない、ときらわれてゐる癖の固さが、これなのだろうか。アテのワルがここに曝されていた。目の前に、等外品の反りと固さが示されていた。でも、仕様がな、とはどうしても思えなかつた。人は蔑視や厄介だけでアテをいうが、それだけでは承服できないにかがあつて苛立つた。

もう一度、挽いてみせる、という。材はもうだいぶ切りとったから、瘦せていた。たぶん最もよくない部分が、残っているのだろうと察しられた。スイッチが入って、材は刃へ進む。切る鋭い音。と、材は抵抗した。ガツガツと刃を拒絶して、進もうとしない。が、材は勝手に後退は、できないようになってる。刃もまた回転を止めない。誰もみつめていた。殺気とはこんなものか、刃物への恐怖、素手でむかつた凄さ。それは刃にも材にも、戦いだつた。ガツガツという抵抗音。材がさからつていて、刃はさからわれているもののようにみえた。微少な差がものをいつていた。スイッチがとめられた。刃の入った部分に、くさびが打込まれ、くさびを打つ音が胸にひびく。切口がひろげられた。スイッチが入る。それでもまだ材は、抵抗して刃を嫌った。二度、三度。そして、刃は通った。すうっと切れていった。切れていくかに見えて、人がゆるんだその時、またガツと高く歯向って、瞬間、材はさつと二つに、斜めに裂けて、小さく裂けたほうが裂目を仰に向けて、ごろんと、ころがった。その場がしんとした。一斉におごそかな空気が包んだ。たまらなくて、裂けたもののそばに膝をついた。自爆したみたいな、その三角に裂けたアテは、強烈な、檜の芳香を放っていた。裂けた木の目は、あぶらをたくさんに含んだうす紅の色沢で、こまかい木目を重ねていた。だが、抱けば、その頑くかな重量。このアテをどうしたらいいかとだけ、あとは何も考えられなかった。

(幸田文「ひのき」による)

14

問1

傍線部①「裏書き」の本文中での意味として最も近いものを

次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

① 隠された文章や記号の意味を、新たに解説し明らかにすること。

② 重要な書類の裏に署名し、その内容が正しいことを保証すること。

③ ある事柄が事実であることを、別の事柄が証明すること。

④ 木の材質を調べるため、目立たない背面に小さな傷をつけること。

⑤ ある出来事の影響や、登場人物の過去について詳しく説明すること。

15

問2

傍線部②「ある時は助けあう間柄であり」とあるが、それは

どのような時か。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

① 互いに実をつけ、子孫を残そうとしていた時。

② 互いに養分を分け合い、成長していた時。

③ まだ若く、風や雪に一本では耐えられなかった時。

④ 動物の食害から、互いを守り合っていた時。

⑤ 病気になった一方を、もう一方が支えていた時。

16

問3

競争に負けた木がまっすぐではなく横に傾いて伸びるのはなぜか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① もともと幹が弱い性質だったから。
- ② 強い風が常に同じ方向から吹いていたから。
- ③ 隙間を利用して太陽光を得ようとしたから。
- ④ 勝った木から養分を吸収しようとしたから。
- ⑤ 土砂崩れによって、根元から傾いてしまったから。

17

問4

傍線部③「アテ」という言葉は、本文中でどのようなものとして説明されているか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① 最高級の木材として評価され、めったに取れないとされる希少な部分。
- ② 木の中心部にあり、年輪を形成するための基礎となる重要な部分。
- ③ 厳しい生育環境から生じた歪みで、材木としては役に立たないとされる部分。
- ④ 木の成長を促進する目的で、人間が意図的に手を加えて作った節の部分。
- ⑤ 二本の木が密着して成長し、やがて一つに癒着してしまった特殊な部分。

18

問5

傍線部④「目がつらくなってきた」とあるが、その理由として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① アテの木の歪んだ姿に、生理的な嫌悪感を覚えたから。
- ② アテの木の過酷な生い立ちを想像し、見るのが忍びなくなつたから。
- ③ アテの木から発せられる特有の樹液の成分で、目が痛んだから。
- ④ 遠くの木ばかり見ていたため、目のピントが合わなくなつたから。
- ⑤ 日光が遮られて周囲が暗く、物が見えにくくなったから。

19

問6

傍線部⑤「一番、いい気持ちに眺められる林」とあるが、それはどのような林か。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① すべてが樹齢数百年の大木だけで構成されている林。
- ② エリートの木とその一族だけが整然と並んでいる林。
- ③ アテの木々がたくましく生きている様子がみられる林。
- ④ 老木から若い木まで、すべての年齢層が揃って元気な林。
- ⑤ 紅葉が美しく、観光地として人気のある林。

20 問7

傍線部⑥「檜の実生が、センチにもならぬ何ミリの小さい芽を、だが、はつきりと青くもちあげていた」とあるが、この表現から筆者は何を感じているか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① 厳しい環境でも芽吹く、檜の繁殖力の旺盛さへの純粋な驚き。
- ② か弱く小さいながらも、力強く生きようとする生命のけなげさ。
- ③ 成木になるまで数百年を要するという、成長の遅さに対する退屈さ。
- ④ 人間の適切な管理なしでは育たない、自然界における生命の脆弱性。
- ⑤ 周囲の苔や下草の成長を妨げる、檜という植物が持つ生命力の脅威。

21 問8

傍線部⑦「もう持時間は少ない」とあるが、それによって筆者の行動はどう変化したか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① 何事も諦めるようになり、無気力になった。
- ② 残りの人生を楽しむため、旅行に出かけるようになった。
- ③ 機会を逃さぬよう、積極的に行動するようになった。
- ④ 知識を後世に伝えようと、執筆活動に専念した。
- ⑤ 健康に気を遣い、規則正しい生活を送るようになった。

22 問9

傍線部⑧「これという節やうろはなし、芯の片寄りがどれだけ幹をアテにしているのか、表面からは皆目わからない」とあるが、ここから筆者はアテについてどのような考察に至ったか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① アテという存在は、長年の経験から生まれた職人たちの単なる思い込みに過ぎないのではないか。
- ② アテの木は、外見からはわからないような複雑な苦勞を内に秘めながら生きてきたのではないか。
- ③ アテの木は、材木として利用されるのを避けるため、人間を欺くように欠点を隠しているのではないか。
- ④ アテの木は、内部に大きな歪みを抱えながらも、それとは無関係に表面だけは美しく成長できるのではないか。
- ⑤ アテという欠点の有無は、表面的な観察だけではわからず、製材して初めて判断できるのではないか。

23

問10

傍線部⑨「木は一度傷をうけると、終生その傷のいたみを、体内に抱えて暮すものだ」とあるが、これはどういうことか。

最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① 木は一度傷を負うと、その部分の成長が完全に止まってしまふということ。
- ② 木は外側の傷を新しい年輪で覆い隠すが、内部には傷跡と歪みが残るということ。
- ③ 木は傷つけられた記憶を持ち、人間や他の動物に対して強い警戒心を抱くということ。
- ④ 木の傷跡は、その木の材質を大きく変化させ、価値を著しく下げること。
- ⑤ 傷ついた木は、他の健康な木から養分を奪い、自己を再生しようとする。

24

問11

傍線部⑩「その場がしんとした。一斉におごそかな空気が包んだ」とあるが、なぜそのような雰囲気になったのか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① 製材機のスイッチが突然切れてしまい、作業が中断したから。
- ② 製材機が大きな音を立てて故障してしまったから。
- ③ 自ら裂けて最期を迎えた木の姿に、生命の尊厳を表していたから。
- ④ 高価な材木を台無しにしてしまい、作業員たちが呆然としたから。
- ⑤ 筆者が突然泣き出したため、周りの人々が気を遣ったから。

25

問12

この文章の筆者、幸田文の父は、明治時代を代表する文学者の一人である幸田露伴である。その幸田露伴の代表作を、次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① 『舞姫』
- ② 『たけくらべ』
- ③ 『五重塔』
- ④ 『小僧の神様』
- ⑤ 『金色夜叉』

三

次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

行基^{ぎょうき}は、日本の歴史上特に知られている僧侶の一人です。飛鳥時代から奈良時代にかけて近畿地方を中心に活動していました。古代律令国家の形成期に、時の政權から睨^{にら}まれながらも、多くの協力者と支持者を集めて公共的な土木事業と慈善活動を行っていた行基。最終的には、東大

寺（奈良県）の完成を目指していた聖武天皇の政權から大仏造立のための協力を依頼され大きな効果を上げて初の「大僧正」に任命されました。

この行基がお寺を開いたとか仏像を彫ったという伝承が神奈川県内にも数多くあります。もちろん、丹沢^{たんざわ}の山麓でも珍しくありません。その理由の一つとして、関東の行基伝承の発信地は幕府草創期の鎌倉だったという指摘があります。確かに、源頼朝は靈驗^{れいげん}あらたかな歴史ある古代寺院を大切にして、寄進や参詣を繰り返していました。伊勢原^{いせはら}の日向薬師もその一つです。

観音菩薩像に祈りをささげながら関東の古代寺院を巡る坂東三十三観音巡礼のコースが、西国三十三観音を真似^{まね}て整備されたのもその頃だと言われています。これにも、鎌倉幕府の何らかの関与があったとも考えられています。そして、厚木^{あつぎ}の飯山観音をはじめ、観音巡礼の札所では行基伝承は珍しくありません。

源頼朝は、平家によって焼き討ちされた東大寺再建事業のための大スポンサーでした。この再建事業の責任者が当時六十歳を超えていた俊乗房重源^{しゅんぼうしげん}です。若くして密教・修験（大峰 他）・念仏（法然の浄土門）の修行を極め入宋^{にっそう}（中国大陸での修行）も経験、最新の土木技術の

専門知識を持ち、職人や廻国^{かいこく}の聖^{ひじり}たちとの人脈を持つカリスマでした。

そして、重源は行基に対するあこがれをもって仕事にあたったと言われています。この時代には、寺社の造営や修繕のために広く布施を集める経済活動は「勧進^{かんじん}」と呼ばれ、あたり前になっていました。行基を語りながら寄付を募り関東を巡った重源配下の勧進聖たちもいたことでしょう。そして、関東の古代寺院の中にも平安時代に始まった勧進活動で行基の名をご本尊の靈驗を世に広めるために語っていたところもあったはず。やがて、新設された観音巡礼コースを修行する僧たちもその信仰の担い手になったでしょう。中世はじめの関東には「行基」という先^aク者への信仰が盛り上がっていたと考えられています。

丹沢山麓で、江戸時代に行基伝承を持っていた寺社を『新編相模国風土記稿^{どきこう}』からピックアップしてみると、秦野^{はだの}市の養毛^{やうもう}・柳川^{やなぎがわ}・三廻部^{みくるべ}・堀山下^{ほりやました}、伊勢原市の日向^{ひなた}・上粕屋^{かみくすや}・石田^{いしだ}、厚木市の旭町^{あさひちやう}・飯山^{いひやま}、愛川町^{あいかわちやう}の八幡周辺。山伏の活動が盛んだったエリアとも重なるのが興味深いところ。

日向薬師には熊野信仰と行基信仰が結びついた縁起が伝わっていました。原本は火事で焼失したそうですが、その二種類の写本が国立公文書館に現存しています。

日向山靈山寺^{りやうざんじんじ}は薬師如来がこの世にあらわれた霊場で、行基菩薩が開いたお寺である。行基菩薩が奈良を出て熊野に詣でる日、路上で一人のハンセン病（らい病）患者をお見かけになった。木陰に臥^ふしていて縁者の付き添いもない。身体の皮膚炎症をおこし、膿や血

がにじみ出ている。一度これを見て慈悲の念が去らず自らその患者の所へ行つて何日も看病された。身体を触りながら撫でて夜中も休むことが無かった。

これは、過去にながらく差別の対象にもなっていた感染症（または皮膚病）の患者と行基の出会いのシーンです。実は、行基が病人と出会って看病するというストーリーは、鎌倉時代の説話集『古今著聞集』に載っているお話です。そして、その舞台は有馬温泉（兵庫県神戸市）でした。ところが。

行基菩薩はゆつくりとお話になった。熊野の本宮に温泉があるという。神通力を持った仙人も沢山いるそうだ。どんな病氣も治ってしまうらしい。どんな皮膚上の症状も一度入れれば治らないものはないそうだ。あなたはそこに行つて温泉に入らなければ。

まるで熊野本宮湯峰温泉（和歌山県田辺市）の宣伝です。説話の中では「小栗判官」も生き返らせる湯峰温泉です。有馬温泉で生まれた行基説話の **A** は熊野本宮へと場所を移し湯峰温泉の効能を宣伝する縁起として再構成されています。そして、この二つの温泉をつなぐ共通点は薬師如来です。

患者は答えました。長く病んでいたので力は衰え、貧しくて財産も底をついた。熊野本宮の温泉に行きたいとは長く願っていたが手だては全くなかった。行基はおっしゃいました。私は慈悲の心をもつて人々を救済するためなら苦勞もいとわな^④い。そして、自らその人を背負つて温泉に連れて行き湯に入れさせた。すると突然、病人は身体が変化して金色のなめらかな肌となり仏陀の目が現れ、行基の

頭をなでて宣言した。東に向かつて無限の世界を過ぎると浄瑠璃世界がある。私はその世界の主、薬師如来である。

薬師如来の登場です。

現在の日向薬師は江戸時代の別当宝城坊が日向薬師宝城坊として国重要文化財の薬師堂にホウ仕していらつしやいます。江戸時代までの靈山寺には山内の最高職「別当」の他にも多くの坊があつて様々な宗教者が薬師堂にホウ仕していました。薬師堂の本尊薬師如来像のありがたさを説き人々の信仰心を高め檀那や参詣者を募るために、この縁起は必要不可欠のものです。薬師堂にホウ仕する宗教者たちが外部に向けて発信する神話的テキストが縁起です。

薬師如来が行基に語りかけます。

たまたま汝を試そうと思つてハンセン病患者に変身して現れた。ところが、汝は朝夕看病して苦勞とも思つていない。臭いけがれにも嫌な顔もしない。よくつとめたと言うしかない。汝にすすめよう。私の姿を写してこれを将来に残しなさい。そして、行基に樹の葉を与えて言つた。この樹の葉を投げてこれが行きつく所、つまり汝が止まる所、そこが我が像があるべき場所である、と言い終わつて姿は消えてしまった。

このストーリーの元ネタと言ってもいい『古今著聞集』に記載された有馬温泉の縁起でも、薬師如来像を造立する場所を選ぶために投げるのは「**B**」です。面白いことに、行基、ハンセン病患者、温泉、薬師如来、木の葉、薬師堂というモチーフで構成された同様の縁起

は東京都町田市にも伝わっています。薬師池で有名な野津田薬師の戦国時代の縁起です。そして、投げられる木の葉は日向薬師も野津田薬師もそろって「椿」「梅」「白」檀」と詳細になっています（『相州大住郡日向薬師縁起』『普光山畧縁起』）。日向薬師の縁起に戻ります。

行基が薬師如来に言われた通りに樹の葉を投げてみるとこの山（日向山）にとどまった。そこで、良材を求めて如来像を作りたいと思いい山や沢を探してみたが手がかりがなかった。その時、二人の神人があらわれ数尺の香木を行基に授けて言った。これは昔、優填王（初めて仏像を作ったという古代インドの王）がお釈迦様を敬い親しみ尊像を刻ませた余材である。石の箱に密閉してあったので腐つてもいない。あなたのセイ心を感じて、特別に入手して運んできた。今度は神の登場です。

二人の神様から特別な材を与えられた行基は喜びます。

行基は歓喜してこれを受け取り約束した。あなたがた二神の霊をここに祭り崇めます。末永く護って頂きたいと強く願ひ望みます。そして、二神の名を問いました。熊野権現である。白髭明神である。

今、山門の左右の二社がこれである。

この二社は現在は一つに合祀され日向神社となっています。昔から日向山を護ってきた大事な神様です。

平安時代から鎌倉時代にかけて有馬温泉（兵庫県）を舞台に語られていた行基とハンセン病患者と温泉と薬師如来のお話は、舞台を熊野本宮湯峰温泉へと移し、最後には熊野権現と白髭明神が行基の手助けをする

という新しい筋書きを展開させています。これは熊野と東国を頻りに行き来していた熊野先達（山伏）や熊野比丘尼が熊野本宮から持ち込んだモチーフだと考えてそう外れていないと思います。日向薬師霊山寺にはかつて山伏の坊がたくさんあってその拠点となっていた時代があったのは確かなことです。

野津田薬師（東京都町田市）の縁起では、材が見つからなかった時に優填王の余材を持つて来て行基を助けてくれるのは弁財天女と稻荷大明神です。山内に祭られていた大事な神様と行基の共同作業で薬師如来像が完成するということも日向薬師の縁起と

有馬温泉、次に熊野本宮湯峰温泉で語られていたもとの縁起は

D

ような内容でした。両所とも古代から現代に至るまで日本

を代表する温泉です。しかし、日向薬師も野津田薬師も温泉地ではありません。熊野本宮から発信されたこのモチーフは東国に入り、薬師如来とともにそこで祭られている神々も行基のサポート役として重要な役割を担う編集がほどこされ、霊験あらたかな薬師如来像の生い立ちを語り伝えていたのです。

日向薬師のご本尊は鉦彫りで有名な国指定重要文化財、桂材の一木造。野津田薬師のご本尊は樺材の一木造、町田市指定文化財。ともに平安仏です。

（城川隆生『丹沢・大山・相模の村里と山伏』による）

問1

傍線部 a、b、c、d のカタカナ部分にはいる漢字と同じ漢字が入るものを次の①～⑤の中からそれぞれ一つ選び、その記号をマークしなさい。

26

a 先ク者

- ① 敗戦のク杯をなめる
- ② 公私をク別する
- ③ 悪貨は良貨をク逐する
- ④ 一字一ク同じである
- ⑤ 人形をク養する

27

b ホウ仕

- ① 建物がホウ落する
- ② ホウ人税を支払う
- ③ 教師としてホウ職する
- ④ 天衣無ホウな人柄だ
- ⑤ 現代はホウ食の時代だ

28

c セイ心

- ① 威セイのいいことを言う
- ② セイ力的に働く
- ③ 主君への忠セイを示す
- ④ 空気セイ浄機を買う
- ⑤ 端セイな顔立ちをしている

29

d 頻パン

- ① 船の甲パン
- ② 商売がハン盛する
- ③ ハン雑な作業
- ④ 合格ハン定が出る
- ⑤ 一パン的な手法

30

問2

傍線部①「多くの協力者と支持者を集めて公共的な土木事業と慈善活動を行っていた行基」で使われている修辭法は何か。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① 倒置
- ② 体言止め
- ③ 対句
- ④ 比喩
- ⑤ 反語

31

問 3

傍線部②「この時代」の内容として本文中で示されているものは何か。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① 寺社の造営や修繕のために寄付を集める勸進活動が始まった時代
- ② 東大寺再建事業が行われていた時代
- ③ 重源が密教・修験・念仏の修行をしていた時代
- ④ 源頼朝と平家が東大寺を焼き討ちした時代
- ⑤ 丹沢山麓で寺社に行基伝承が広まった時代

32

問 4

傍線部③「行基を語りながら」の意味として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① 行基のようになる夢を持ちながら
- ② 行基とともに話し合いながら
- ③ 行基の名前を連呼しながら
- ④ 自分が行基だと自称しながら
- ⑤ 行基の事績を説明しながら

33

問 5

空欄

A

に入る言葉として最も適切なものを次の

①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① シグナル
- ② モチーフ
- ③ ニーズ
- ④ インパクト
- ⑤ フィーリング

34

問 6

傍線部④「苦勞もいとわな」と同じ意味の言葉はどれか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ① 効率的な手段をとれる
- ② 苦痛が気持ちよい
- ③ 希望を捨てない
- ④ 何でもする
- ⑤ 信仰心が支えになる

35 問7 空欄

B

に入る言葉として最も適切なものを次の

① ⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

① 木の葉

② 仏像

③ 僧侶

④ 病人

⑤ 縁起

38 問10 空欄

D

に入る言葉として最も適切なものを次の

① ⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

① 当時の世相を反映する

② 薬師如来の信仰に依拠する

③ 温泉の効能を宣伝する

④ ハンセン病の治癒を示す

⑤ 行基の偉大さを伝える

36 問8

傍線部⑤「二人の神人」の正体はどれか。最も適切なものを

次の① ⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

① 薬師如来とハンセン病患者

② 弁財天女と稻荷大明神

③ 日向薬師と野津田薬師

④ 優填王とお釈迦様

⑤ 熊野権現と白髭明神

37 問9

空欄

C

に入る言葉として最も適切なものを次の

① ⑤の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

① 引けを取りません

② 瓜二つです

③ 一線を画します

④ 輪をかけます

⑤ 馬が合います

以上で問題は終わります。解答票の解答番号 39 以降は使用しません。